



MS

MORIOKA
SHINKIN

*Report of
Business forecasting*

vol.68

- 景況調査…1～12
- 特別調査
「中小企業の雇用・賃金動向」について…13～14

MORIOKA SHINKIN BANK

景況レポート

2007.8.10 発行

平成19年4月～6月期

平成19年7月～9月期 見通し

ホームページアドレス

<http://www.morishin.co.jp/>

調査の要領

(業種別調査企業数と回答数の内訳)





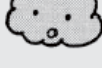
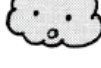

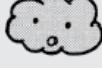
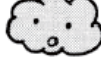


















	対象企業	回答数
製造業	63	61
卸売業	25	24
小売業	96	94
飲食業	32	31
サービス業	54	51
運輸業	13	12
建設業	53	51
不動産業	20	19
合計	356	343

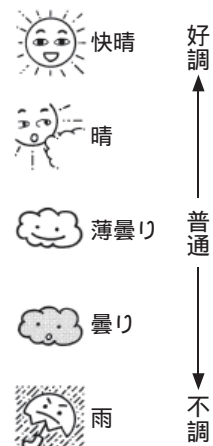
調査時期 6月上旬
 調査内容 平成19年4月～6月の景況
 平成19年7月～9月の見通し
 調査方法 当金庫職員による聞き取り調査
 調査対象 当金庫の取引先
 回答数 343先(回答率96.35%)
 (回収不能 13先)

お忙しい中、ご協力いただきまして大変ありがとうございました。お問い合わせは最寄りの営業店、または企画部《(019)623-2221》までお願いします。
 次回調査(9月上旬予定)にも、ご協力くださいますよう、お願い申し上げます。

景況天気図

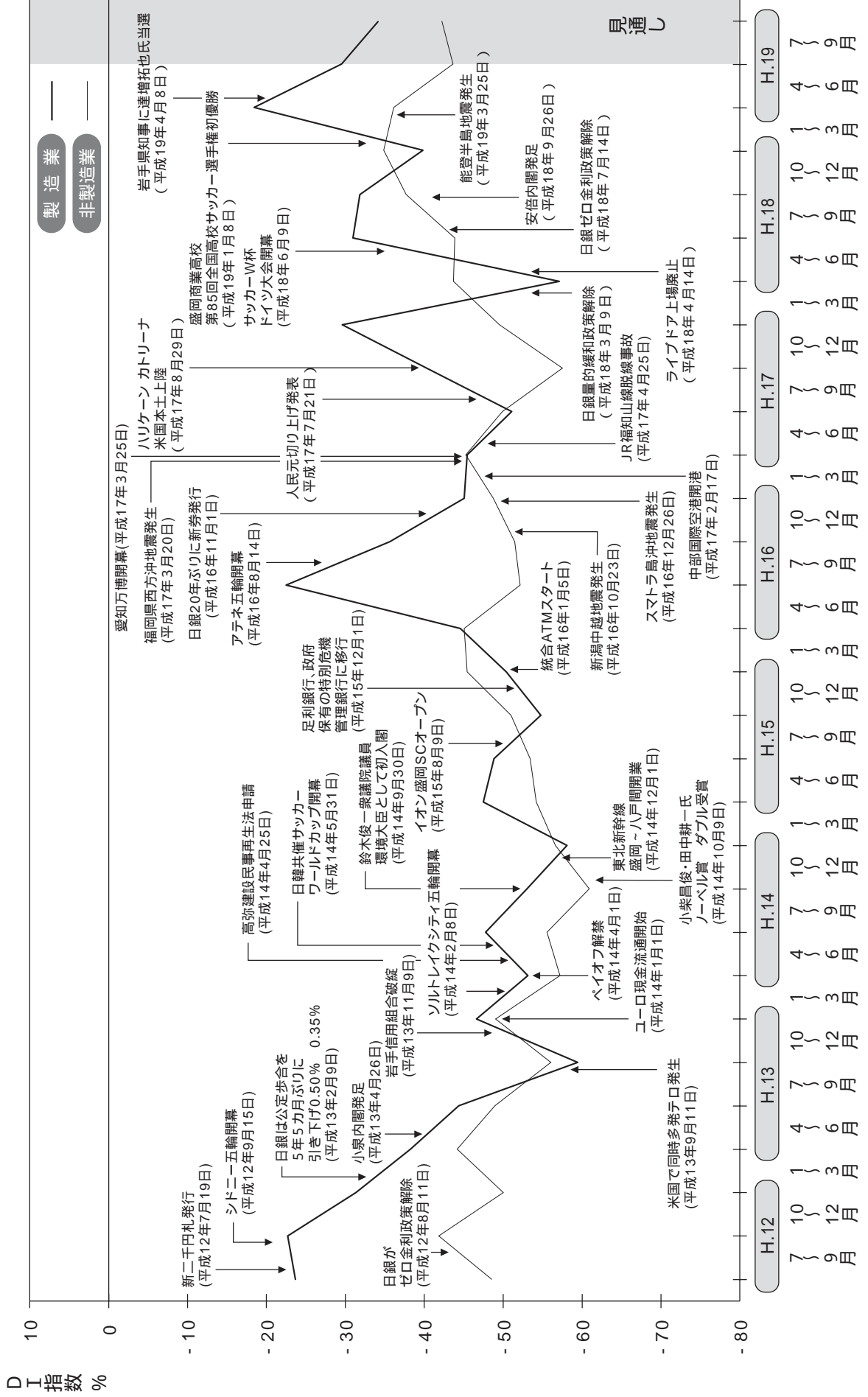
(景況調査の概況)

	平成19年1～3月期	平成19年4～6月期	平成19年7～9月期 見通し
全業種 (総合)			
製造業			
卸売業			
小売業			
飲食業			
サービス業			
運輸業			
建設業			
不動産業			



※この天気図は景況指数を総合的に判断して作成したものです。

製造業と非製造業の業況判断D I (季節調整済)



景況総合判断指数(DI)

平成19年 4 ~ 6月

前期 *DI	当期(平成19年1月~3月期に比べて)				景況	見通し(平成19年7月~9月期)			
	増加	普通	減少	*DI		増加	普通	減少	*DI
-34	11	37	52	-41	業況	7	46	47	-41
-18	22	33	45	-22	売上高	23	36	41	-22
-25	15	38	47	-32	収益	19	40	41	-25
-14	9	67	24	-15	販売請負価格	8	71	21	-14
15	35	57	8	26	材料仕入価格	29	62	9	19
-3	11	76	13	-2	在庫	8	77	15	-5
-31	6	55	39	-36	資金繰り	4	57	39	-36
-13	7	75	18	-9	残業時間	7	79	14	-7
-7	14	69	17	-7	人手	13	67	20	-6
-13	6	81	13	-6	設備の状況	5	82	13	-11

*DI(Diffusion Index)は、増加企業割合から減少企業割合を差し引き、不変(普通)部分を除いて景況を判断しようとするものです。

*「季節調整済DI」は、1年を周期として季節的な変動を繰り返すDIから、季節の変動を除去した動向指数です。

増加・普通・減少は右のように置き換えます。

	増加	普通	減少
業況	良い	普通	悪い
価格	上昇	変わらず	下降
在庫・人手・設備の状況	過剰	適正	不足
資金繰り	楽	変わらず	苦しい

業種別業況動向

(景況調査の概況)

	平成19年1~3月期		平成19年4~6月期		平成19年7~9月期	
	実績	前期予想	実績	前期予想	見通し	
全業種(総合)	-34	-36	-41	-31	-41	—
製造業	-19	-33	-29	-14	-34	—
卸売業	-21	-24	-36	-38	-22	—
小売業	-40	-47	-45	-37	-36	—
飲食業	-46	-33	-71	-53	-53	—
サービス業	-25	-26	-41	-30	-37	—
運輸業	-46	-15	-29	-18	-41	—
建設業	-46	-47	-38	-36	-41	—
不動産業	-14	-20	-36	-11	-44	—

*DIは季節調整済 *それぞれの右欄は前期に予想したDIを示す

景況

景況は悪化傾向を強める

今期(平成19年4月～6月期)の景況は、全業種総体で前期の緩やかに改善から一転し、悪化傾向を強めました。業種別では運輸業、建設業が前期に比べ改善したものの、それ以外の業種では前期に比べ下降したため、総体としては、悪化傾向を強めました。

業況判断指数(季節調整済DI)は、全業種で-41と前期の-34から7ポイント下降し悪化傾向を強めました。製造業は-29と10ポイント下降し悪化傾向を大きく強めました。また非製造業も-44と前期の-36から8ポイント下降し、運輸業、建設業が悪化傾向を弱めたのに対し、特に飲食業、不動産業の落込みが著しく、全体としては悪化傾向を強めました。

売上額は、-22と前期より4ポイント下降し減少傾向を強めました。

収益は、-32と前期の-25から7ポイント下降し減少傾向を強めました。

価格面は、販売価格が-15と前期の-14と大きな変化なくほぼ横ばいで推移したのに対し、仕入価格は26と前期15より11ポイントと大きく上昇し利鞘の減少傾向を強めました。

資金繰りは、-36と前期の-31から5ポイント窮屈感が強まりました。

業種別の業況は、製造業が10ポイント、卸売業が15ポイント、小売業が5ポイント、飲食業が25ポイント、サービス業が16ポイント、不動産業が22ポイントそれぞれ下降し悪化傾向を強めたのに対し、運輸業は17ポイント、建設業は8ポイントそれぞれ上昇し、悪化傾向を弱めました。

経営上の問題点は、「売上への停滞・減少」が58%と4ポイント、「同業者間の競争の激化」は42%と3ポイント下降し、「利幅の縮小」は32%と1ポイント上昇しました。

来期の見通し

景況は横ばいで推移

来期(平成19年7月～9月期)の景況は、総体的には大きな変化がなく推移するとみています。業種別では卸売業、小売業、飲食業、サービス業が改善するとみていますが、運輸業、建設業が下降傾向に転じ、製造業、不動産業で悪化傾向をさらに強めるとみているため、総体的には、今期に比べてほぼ横ばいで推移するとみています。

業況判断指数は、-41と今期に比べ同じく、横ばいで推移するとみています。

売上額は、-22と今期に比べ同じく、横ばいで推移し、**収益**は-25と今期に比べ7ポイント上昇し、減少傾向を弱めるとみています。

価格面では、販売価格は-14と今期に比べわずかに1ポイント上昇しますが、仕入価格は19と7ポイント下降し、利幅は増加するとみています。

資金繰りは-36と今期に比べ同じく、横ばいで推移し、依然窮屈感は続くとみています。

業種別の業況判断は、製造業、不動産業がさらに悪化傾向を強め、運輸業、建設業も悪化傾向を強めるとみています。一方、卸売業、小売業、飲食業、サービス業では悪化傾向を弱めるとみています。

雇用の動き

人手は、今期-7と横ばいで推移しましたが、来期も-6とわずかに1ポイント不足傾向を弱めるに留まり、大きな変化はなさそうです。

残業時間は、今期-9と前期-13に比べて4ポイント減少傾向を弱め、来期も-7と2ポイント減少傾向を弱めそうです。

在庫、設備投資の動き

在庫は、今期-2と前期と1ポイント不足傾向を弱めました。来期は-5と3ポイント不足傾向を強めるとみています。

設備の状況は、今期は-6と7ポイント不足感を弱めました。来期は再び-11と5ポイント不足感を強めるとみています。設備投資を実施した先は、今期、全業種総体で車両を中心に20%で前期に比べて1ポイントわずかに増加しました。来期は機械設備の更改を中心に14%の先が実施予定とし、今期に比べ6ポイント減少する見通しから、依然投資意欲は低い状態が続くとみています。

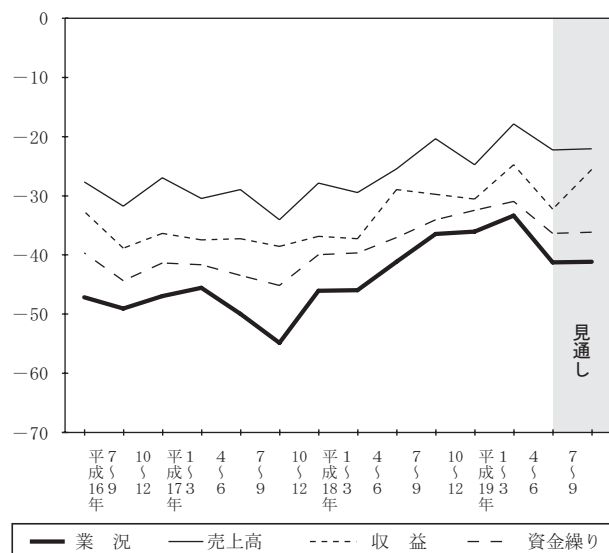
業種別では、今期製造業、飲食業、運輸業、建設業で増加しましたが、来期は全業種で減少するとみっており、投資意欲はさらに弱まりそうです。

借入金の状況については、今期借入れ実施割合が5割を超えたのは卸売業のみで、製造業で1ポイント、卸売業で2ポイント、飲食業と運輸業で3ポイント、サービス業で11ポイント、不動産業で17ポイント上昇しました。小売業は横ばいで推移し、建設業のみが、9ポイント減少しました。全業種総体では32%の実施となり2ポイント増加しました。来期は運輸業のみが横ばいで推移する予定で、その他の業種はすべて減少し、全業種総体では7ポイント減少の25%の先が実施予定としています。

借入れの難易度は、「難しい」が22%となり、前期より2ポイント上昇しました。

景況の推移

* 前期比：DI・季節調整済



* 前期比：D I・季節調整済

景況

業況は、食料品製造業が大きく悪化傾向を強めました。特に建設用・建設用金属製品製造業は前期まで上昇傾向が続いておりましたが、今期悪化傾向に転じました。またその他の製造業も悪化傾向を強めました。一方木材・木製品製造業、出版・印刷・同関連産業は前期に続き悪化傾向を弱め、また窯業・土石製品製造業も大きく悪化傾向を弱めました。全体としては-29と前期と比べて10ポイント悪化傾向を強めました。売上額は横ばいに推移しましたが、収益は悪化傾向を強めました。価格面では、販売価格は下降傾向を強め、原材料価格は上昇傾向を強めたことから利幅が縮小しました。原材料在庫は過剰感が強まりました。資金繰りは前期、窮屈感が緩和しましたが、今期わずかに窮屈感を強めました。残業時間は減少傾向から増加傾向に転じました。人手は不足傾向をさらに弱めました。設備投資はわずかに過剰感を強め、設備投資を実施した先は車輛を中心に23%となり、3ポイント増加しました。

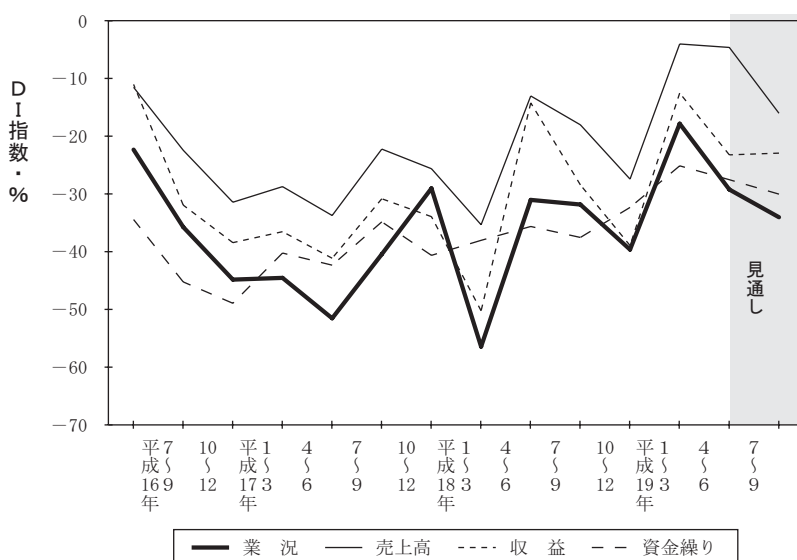
来期の見通し

業況は、-34と5ポイント、今期に続き悪化傾向が強まりそうです。建設用・建設用金属製品製造業と食料品製造業、出版・印刷・同関連産業は悪化傾向を弱めるとみています。一方木材、木製品製造業は今期悪化傾向を弱めていましたが、来期はふたたび悪化傾向を強めるとみています。さらに窯業、土石製品製造業、その他の製造業は悪化傾向を強めるとみており、全体的には悪化傾向を強めそうです。業況は、今期ほぼ横ばいで推移した売上が大きく悪化傾向を強めるとみていますが、収益は悪化傾向ながら横ばいで推移するとみています。価格面では、販売価格が下降傾向を弱めますが、原材料価格ではわずかながら下降傾向が強まり、利幅の減少傾向が弱まりそうです。原材料在庫は過剰感が弱まりそうです。資金繰りは今期に続き窮屈感が強まるとみています。残業時間は横ばいで推移しそうです。人手は引続き不足感が強まりそうです。設備投資については不足感が強まるとみており、機械設備の更改を中心に21%の先が実施の予定とし、2ポイント減少するようです。

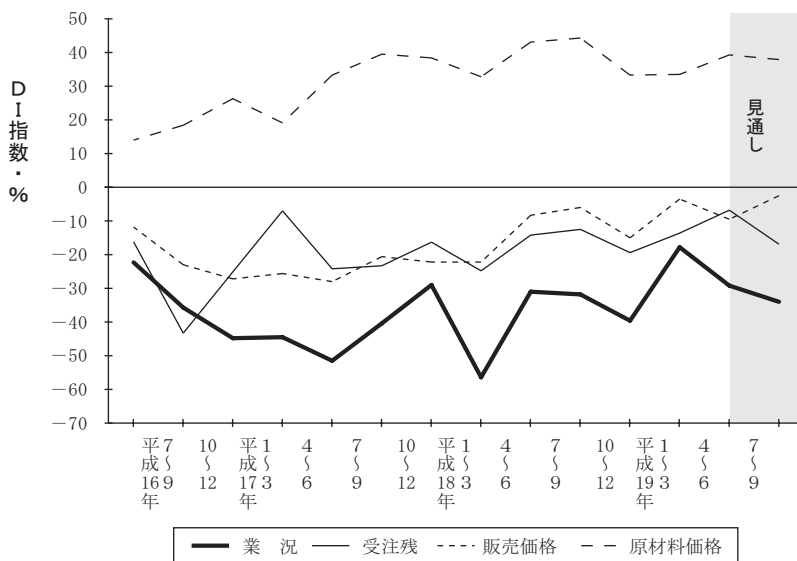
調査員のコメント

- 夏場に向け、売上は例年減少気味であるが、夏季商品の開発を模索研究している。(和菓子製造業)
- 同業者間の競争激しい中、パートによる人件費節減等により、収益確保に努力している。(墓石製造業)

景況の推移

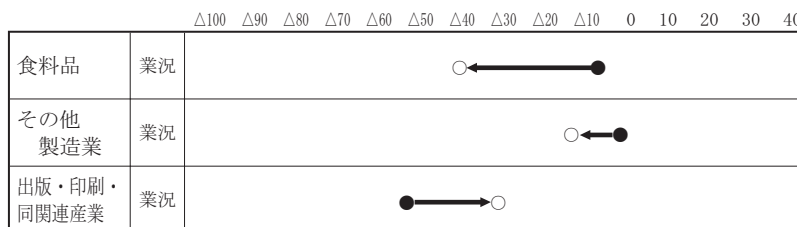


主な指標の動き



業種別業況判断DIの推移

今期(19年4月~6月)/ 前期(19年1月~3月期)



経営上の課題点	1位	2位	3位
	売上の停滞・減少(1)	52%	
	利幅の縮小(3)	39%	
		同業者間の競争の激化(2)	38%

当面の重点経営施策	1位	2位	3位
	経費を節減する(2)	66%	
	販路を広げる(1)	62%	
		情報力を強化する	28%

*()は前回順位

* 前期比：D I・季節調整済

景況

業況は、農畜産物・水産物卸売業、その他の卸売業で大きく悪化傾向を弱めました。特に機械機具卸売業では悪化傾向から良好傾向に転じました。一方建築材料卸売業は大きく悪化傾向に転じ、食料・飲料卸売業もさらに悪化傾向を強めたため、全体として-36と前期比15ポイント悪化傾向を強めました。売上額、収益はともに減少傾向を弱めました。価格面では、販売価格、仕入価格とも上昇傾向を強め、利幅は減少傾向を強めました。在庫は過剰感を弱めました。資金繰りは窮屈感が弱まりました。残業時間は大きく減少傾向に転じました。人手は過剰感が弱まりました。設備の状況は不足感が弱まりました。わずかに過剰感が強まりました。設備投資を実施した先は車両を中心に、前期より9ポイント下降し17%となりました。

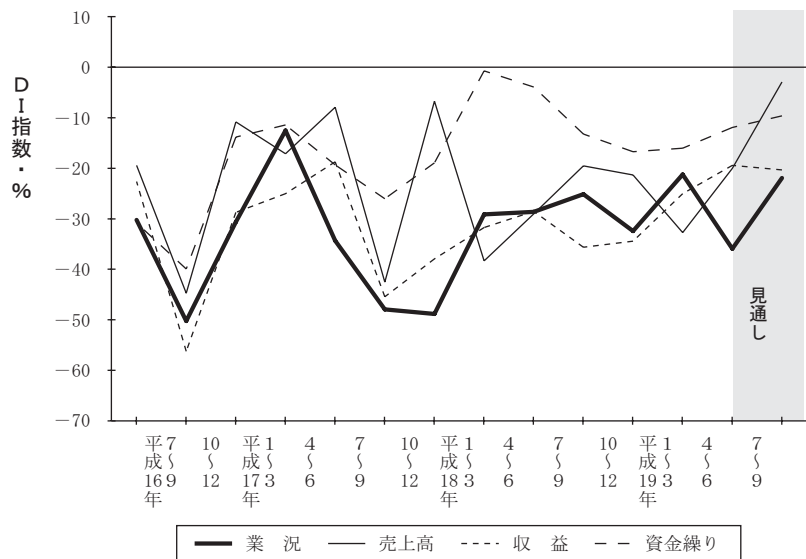
来期の見通し

業況は、食料・飲料卸売業、その他の卸売業で大きく悪化傾向を弱め、わずかに良好傾向に転じるとみえています。また機械機具卸売業でわずかに良好傾向を強めそうです。一方農畜産物・水産物卸売業は横ばいで推移し、建築材料卸売業で大きく悪化傾向を強めるとみえています。全体としては-22と14ポイント悪化傾向が弱まるとみえています。売上額は減少傾向を大きく弱めそうですが、収益はわずかに減少傾向を強めるとみえています。価格面では、販売価格の上昇傾向が強まりますが、仕入価格は下降傾向が強まるとみえています。在庫は過剰感が強まりそうです。資金繰りはわずかに窮屈感が弱まるとみえています。残業時間は減少傾向が弱まりそうです。人手は過剰感から一転し不足感強まるとみえています。設備の状況は不足感が強まりそうです。設備投資については事業用土地建物、車両を中心に8%の先が実施の予定としていますが、9ポイント減少し投資意欲が減退するようです。

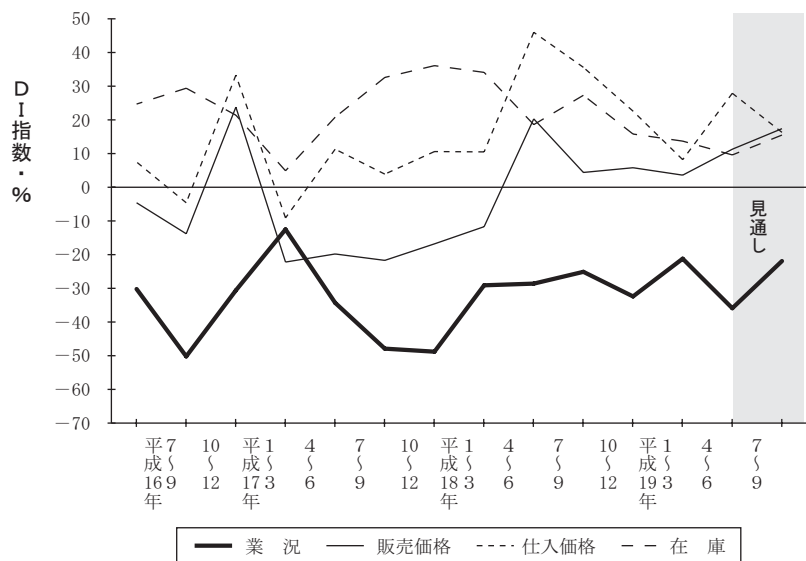
調査員のコメント

- 大手スーパーへの納入あり売上増加傾向であるが、収益はあまり増加がない。経費節減に努め適正な利益を上げたい。
(野菜・果物卸売業)
- 仕入価格の上昇により、売上、収益が減少してきた。配送順路の見直しや仕入先の見直しを含め、販売管理費の削減に努力している。
(家畜飼料卸売業)

景況の推移



主な指標の動き



業種別業況判断DIの推移

今期(19年4月~6月)/ 前期(19年1月~3月期)

△100 △90 △80 △70 △60 △50 △40 △30 △20 △10 0 10 20 30 40

業種	業況	DI 推移
農畜産物・水産物	業況	● → ○
食料・飲料	業況	○ → ●
機械器具	業況	● → ○

経営上の課題点	1位	15社 (63%)
	2位	13社 (54%)
	3位	6社 (25%)

当面の重点経営施策	1位	19社 (79%)
	2位	18社 (75%)
	3位	12社 (50%)

*()は前回順位 *対象企業総数は25社

*前期比：D I・季節調整済

景況

業況は、医薬品・化粧品小売業で大きく良好傾向に転じ、また燃料小売業が悪化傾向を弱めました。繊維・衣服・身のまわり品小売業、自動車・自転車小売業でも悪化傾向を弱め、飲食料品小売業もわずかに悪化傾向を弱めました。一方家庭用機械・電気機械器具小売業、その他の小売業は横ばいで推移しましたが、写真機・時計・眼鏡・貴金属小売業で悪化傾向に転じ、木材・建築材料小売業でも悪化傾向を強めました。また書籍・文房具小売業でも悪化傾向を強めたため、全体としては-45と5ポイント悪化傾向を強めました。売上額、収益とも減少傾向を強め、価格面では、販売価格は下降傾向を強めました。仕入価格はわずかに下降傾向を強めました。在庫は横ばいで推移し、資金繰りは窮屈感が強まりそうです。残業時間はわずかに減少傾向を強めました。人手もわずかに不足感が強まりました。設備の状況はほぼ横ばいで推移し、設備投資を実施した先は車両を中心に12%と前期と変化ありませんでした。

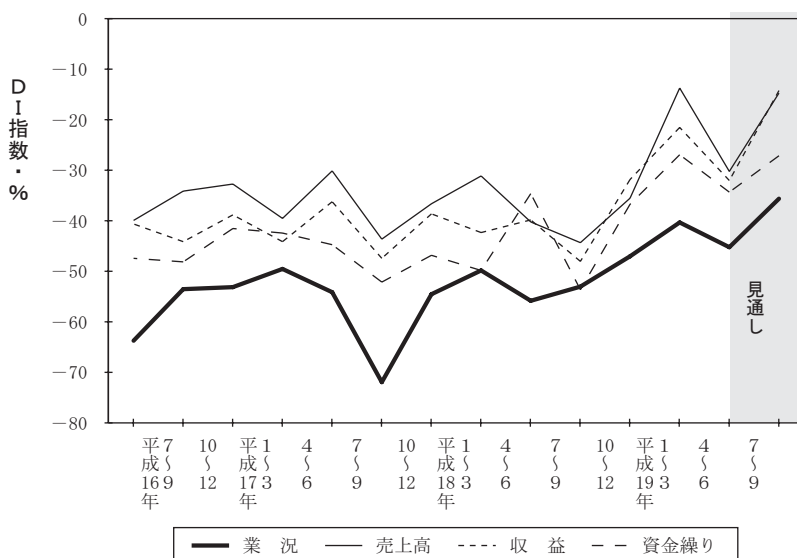
来期の見通し

業況は、家庭用機械・電気機械器具小売業、写真機・時計・眼鏡・貴金属小売業で大きく悪化傾向を弱めるとみえています。また繊維・衣服・身のまわり品小売業、燃料小売業、書籍・文房具小売業、木材・建築材料小売業がわずかに悪化傾向を弱めるとみえています。一方医薬品、化粧品小売業では大きく悪化傾向に転じそうです。また飲食料品小売業、その他の小売業が悪化傾向を強め、自動車・自転車小売業では今期悪化傾向が弱まりましたが、来期は悪化傾向が大きく強まるとみており、全体的には-36と9ポイント悪化傾向を弱めそうです。売上額、収益は今期減少傾向を強めました。価格面では、販売価格はほぼ横ばいで推移し、仕入価格はわずかに上昇傾向が強まるとみえています。在庫は不足傾向を強めそうです。資金繰りは窮屈感が緩和されるとみえています。残業時間は減少傾向を弱めそうです。人手は不足感を強めるとみえています。設備の状況はわずかに不足感が弱まり、設備投資については、車両を中心に実施予定が5%と今期に比べて7ポイント減少するとみており、投資意欲はさらに低迷しそうです。

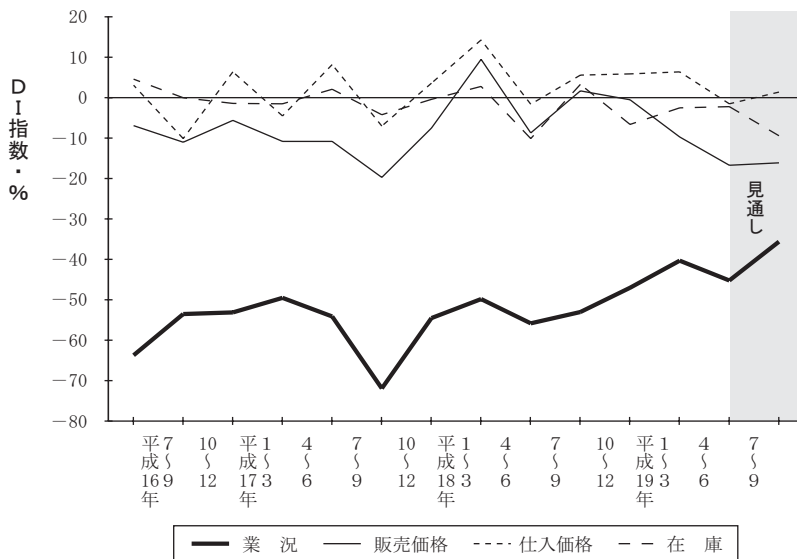
調査員のコメント

- 手ごろな価格で、若い人向けに売れ、売上が伸びている。
(カジュアル衣料品小売業)
- 取扱商品が主に建設業資材のため、売上げがここ数年減少している。従業員も過剰状態だが現在維持している。今後は新たな分野への事業展開を考えている。
(カラー鋼板小売業)

景況の推移



主な指標の動き



業種別業況判断DIの推移

今期(19年4月~6月)/ 前期(19年1月~3月期)

		△100	△90	△80	△70	△60	△50	△40	△30	△20	△10	0	10	20	30	40
繊維・衣服・身の回り品	業況															●
飲食料品	業況															●
書籍・文房具	業況															●

経営上の問題点	1位	売上の停滞・減少(1)	55%
	2位	大型店との競争の激化	43%
	3位	同業者間の競争の激化(2)	35%

当面の重点経営施策	1位	経費を節減する(1)	66%
	2位	品揃えを改善する(2)	39%
	3位	売れ筋商品を取り扱う	37%

*()は前回順位

* 前期比：D I・季節調整済

景況

業況は、-71と25ポイント大きく悪化傾向を強めました。売上額は-52と前期比17ポイント減少傾向を強め、収益も-55と前期比33ポイント減少傾向を強めました。価格面では、販売価格は-9と8ポイント下降傾向を弱めました。仕入価格は41と30ポイント上昇傾向を大きく強めました。在庫は不足傾向が緩和されました。資金繰りは-56と7ポイント窮屈感を強めました。残業時間は-7と横ばいで推移しました。人手は-25と15ポイント不足感を強めました。設備の状況は-13と7ポイント不足感を弱めました。設備投資を実施した先は事業用土地建物、車両を中心に10%と前期に比べ3ポイント増加しました。

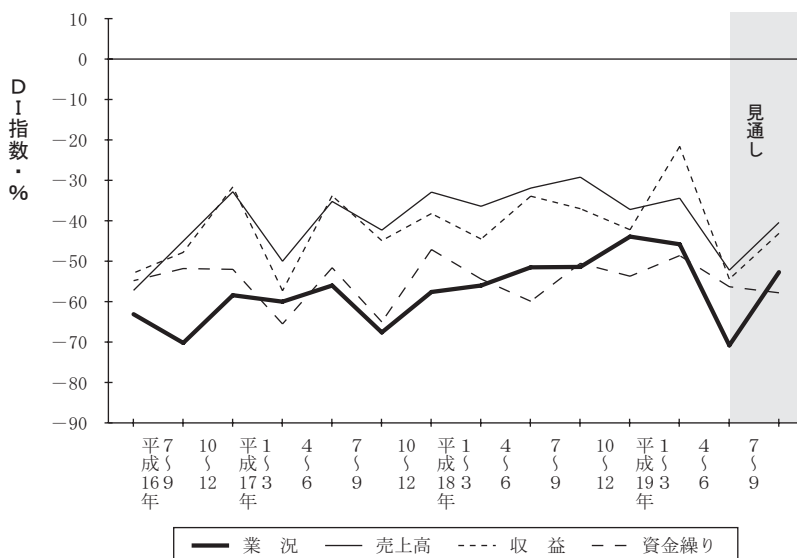
来期の見通し

業況は-53と今期に比べ18ポイント悪化傾向が弱まるとみえています。売上、収益とともに減少傾向を弱めそうです。価格面では、販売価格は下降傾向を強め、仕入価格はわずかに上昇傾向が弱まるとみえています。在庫はわずかに不足感が強まるとみえています。資金繰りはわずかに窮屈感が強まり依然厳しい状態が続くそうです。残業時間はやや減少傾向を強めそうです。人手は不足感が弱まりそうです。設備の状況についてはさらに不足感が弱まりそうですが、設備投資については今期増加の反動か実施の予定がなく、投資意欲は依然低迷したままとなりそうです。

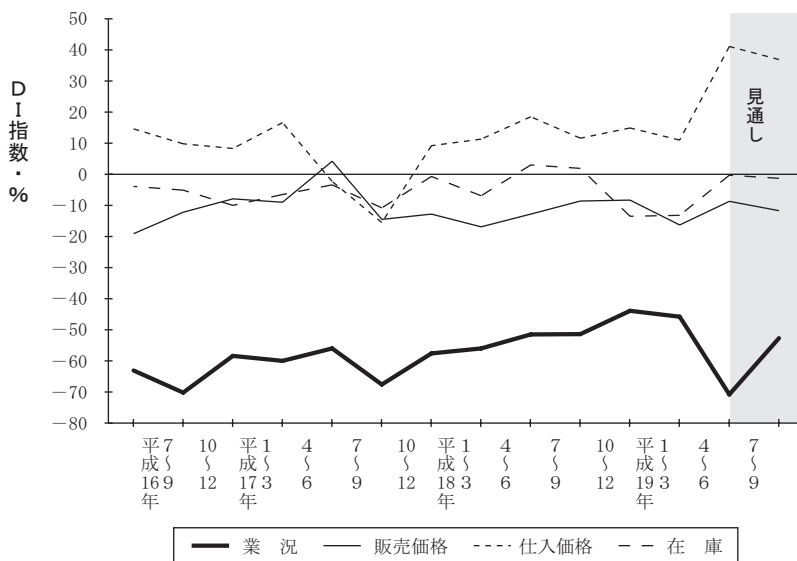
調査員のコメント

- 商店街の客離れにより来店客が減少している様子である。経費節減や新メニューの開発により努力していく。
(そば・うどん・丼類小売業)
- ディスカウントストア等で安価な自転車を購入する人が増えており、販売面は低調であるが、メンテナンスには定評があり、こちらは順調である。
(自転車・オートバイ小売業)

景況の推移



主な指標の動き



* 前期比：D I・季節調整済

景況

業況は、-29と17ポイント悪化傾向を弱めました。売上額、収益とも減少傾向を強めました。価格面では、料金価格は下降傾向を強めました。材料価格は上昇傾向を大きく強めました。資金繰りは窮屈感を弱めました。残業時間は減少傾向に転じました。人手は不足傾向が大きく弱まりました。設備の状況は不足感が弱まりました。設備投資を実施した先は車両を中心に33%となり、前期に比べて10ポイント増加しました。

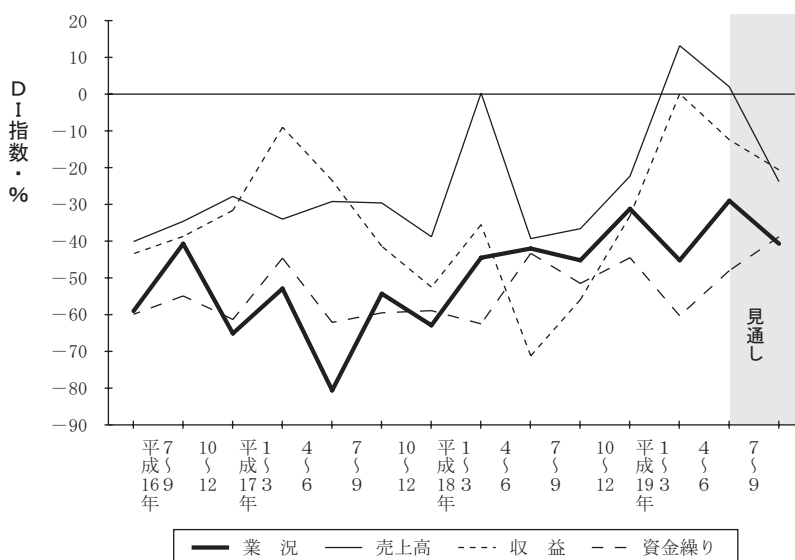
来期の見通し

業況は、-41と今期に比べて12ポイント悪化傾向が強まるとみています。また売上額は減少傾向に大きく転じ、収益は減少傾向を強めそうです。価格面では、料金価格は下降傾向を強め、材料価格は大きく上昇傾向を弱めるとみています。資金繰りは窮屈感が緩和するとみていますが、依然窮屈な状態が続くそうです。残業時間は減少傾向が強まりそうです。人手は不足感が弱まりそうです。設備の状況は不足感が弱まると見ていますが、設備投資の実施については17%の先が実施の予定としており、前期の反動からか16ポイント減少するとみています。

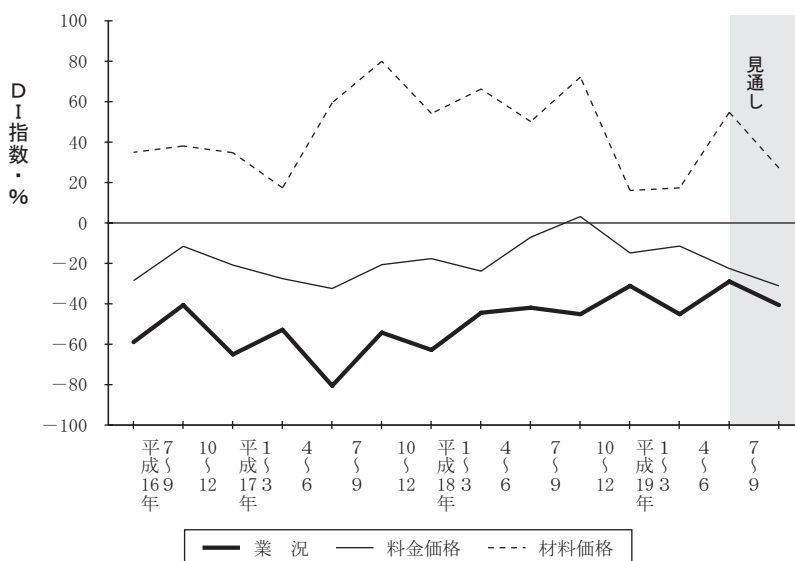
調査員のコメント

- 他企業との競争激しく、貸切バス事業の不振を集合バス事業でカバーするも、売上増加には厳しいものがある。また原油高騰の影響がでてきている。(旅客運送業)
- 地域に新規参入業者が目立ち始め、今月より初乗り価格を値下げし、新聞折込チラシを配付した。料金メーターの更改に費用がかかり、人手不足が課題である。(旅客運送業)

景況の推移



主な指標の動き

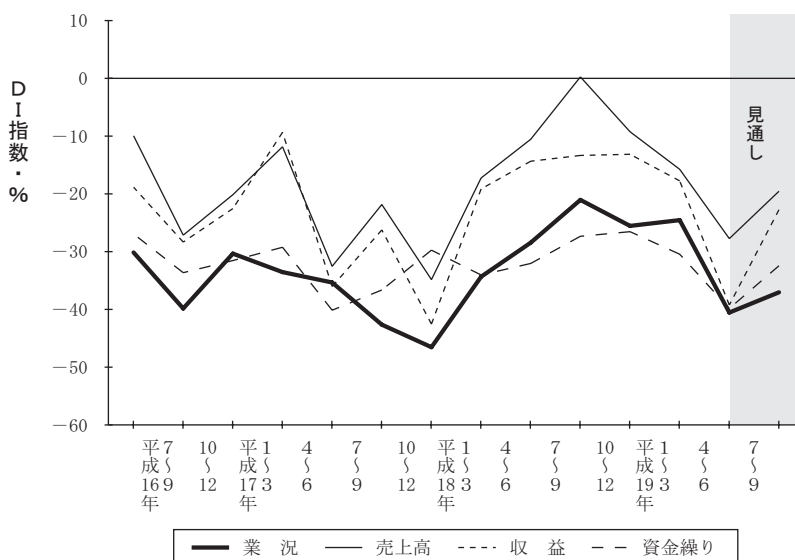


* 前期比：D I・季節調整済

景況

業況は、その他のサービス業で悪化傾向を弱めました。一方旅館、その他の宿泊所、情報サービス・調査・広告業で良好傾向から大きく悪化傾向に転じました。また物品賃貸業、娯楽業とも良好傾向から悪化傾向に転じました。自動車整備および駐車場業は悪化傾向を強めました。洗濯・理容・浴場業はほぼ横ばいで推移しましたが、全体としては-41と16ポイント悪化傾向を強めました。売上額、収益は減少傾向を強めました。価格面では、料金価格が下降傾向を強め、材料価格はわずかに上昇傾向を弱めました。資金繰りは窮屈感がさらに強まりました。残業時間は減少傾向を弱めました。人手は前期適正内となりましたが、今期不足感が強まりました。設備の状況は不足感を強めました。設備投資を実施した先は、機械設備の更改を中心に29%と前期に比べてほぼ横ばいとなりました。

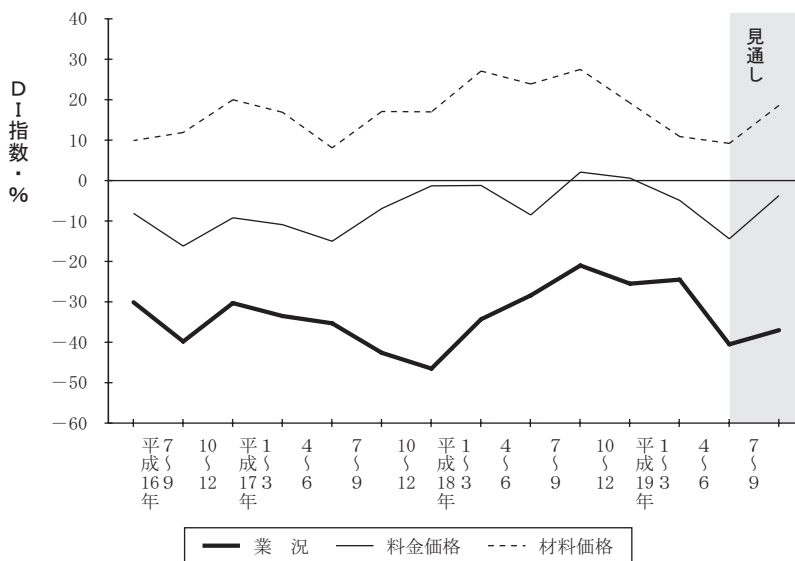
景況の推移



来期の見通し

業況は、洗濯・理容・浴場業、その他のサービス業で悪化傾向が弱まると見えています。特に今期大きく悪化傾向に転じた情報サービス・調査・広告業が良好傾向に転じるとみえています。一方物品賃貸業、娯楽業はわずかに悪化傾向を強めるとみえています。また旅館、その他の宿泊所、自動車整備および駐車場業で悪化傾向を強めそうですが、全体的には-37と4ポイント悪化傾向が弱まりそうです。売上額、収益はともに減少傾向を弱めるとみえています。価格面では、料金価格は下降傾向を弱め、材料価格は上昇傾向が強まるとみえています。資金繰りは窮屈感が弱まりそうですが、依然窮屈な状態は続くとみえています。残業時間は減少傾向を弱めそうです。人手は不足傾向からわずかに過剰感が強まりそうです。設備の状況は不足感が弱まりそうです。設備投資については機械設備の更改を中心に28%の先が実施の予定としておりますが、今期に比べて1ポイント下降し投資意欲はわずかに減退するようです。

主な指標の動き



業種別業況判断DIの推移

今期(19年4月~6月)/ 前期(19年1月~3月期)

		△100	△90	△80	△70	△60	△50	△40	△30	△20	△10	0	10	20	30	40
旅館・その他の宿泊所	業況															●
洗濯・理容・浴場業	業況						●									○
娯楽業	業況												○	●		

調査員のコメント

- 現在近郊に競合店なく、順調に推移しているが、今後は同業者の進出も予定されている。人材育成に力を入れていきたい意向だが、従業員能力向上に向け研修時間もとれないのが現状である。(ホテル業)
- インターネット等を利用し、安定した顧客を確保しているが、客単価の減少が課題である。(旅館業)

経営上の課題点	1位	売上停滞・減少(1)	57%
	2位	同業者間の競争の激化(2)	41%
	3位	利幅の縮小(3)	20%

当面の重点経営施策	1位	経費を節減する(1)	45%
	2位	販路を広げる(2)	43%
	3位	教育訓練を強化する(4)	33%

*()は前回順位

* 前期比：D I・季節調整済

景況

業況は、職別工事業で悪化傾向を弱めました。一方総合工事業、設備工事業で悪化傾向を強めました。全体としては-38と8ポイント悪化傾向を弱めました。また、売上額、収益ともに減少傾向を弱めました。受注残も減少傾向を弱め、施工高もまた減少傾向を弱めました。価格面では、請負価格は下降傾向が弱まりましたが、材料価格は上昇傾向が強まりました。資金繰りは窮屈感がさらに強まりました。残業時間は減少傾向が弱まり、人手は不足感がわずかに強まりました。設備の状況は不足感がわずかに強まり、設備投資を実施した先は事業用土地建物、車両などで26%となっており、前期より1ポイントわずかに増加しました。

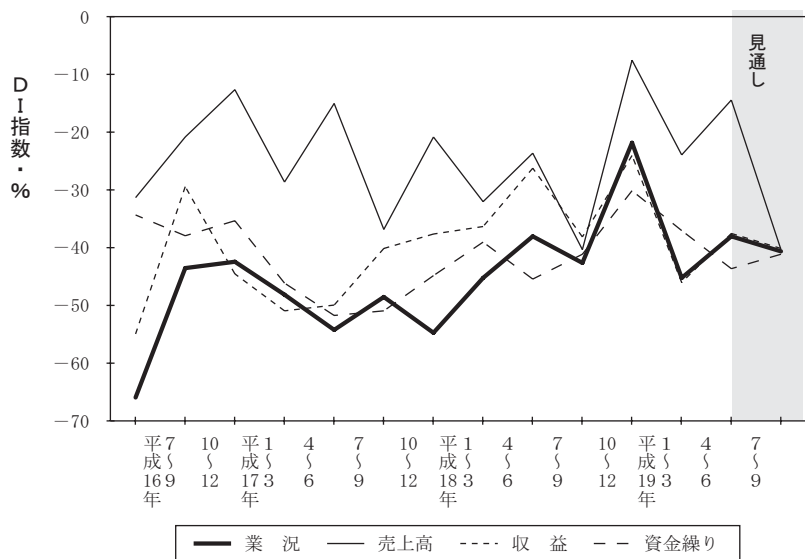
来期の見通し

業況は、総合工事業、職別工事業、設備工事業で悪化傾向を弱めるとみえています。売上額、収益ともに減少傾向を強め、また受注残も減少傾向を強め、施行高は大きく減少傾向を強めるとみえています。価格面では、請負価格は下降傾向を強めそうです。材料価格は上昇傾向が弱まるとみえています。資金繰りは窮屈感がわずかに弱まりそうですが依然窮屈な状態が続きそうです。人手は今期に比べて不足感が強まるとみえています。設備の状況はわずかに不足感が弱まりそうですが、設備投資については事業用土地建物を中心に18%の先が実施予定とし、今期より8ポイント減少するとみており、投資意欲は減退しそうです。全体としては-41と3ポイント悪化傾向が強まりそうです。

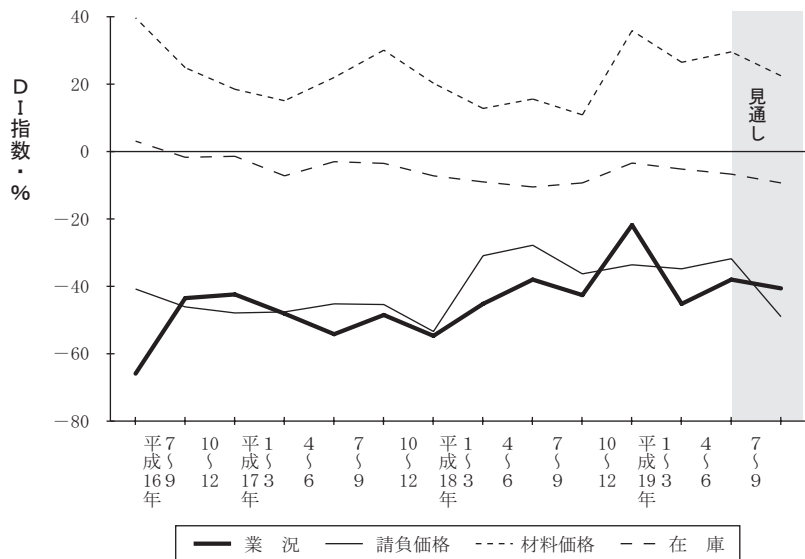
調査員のコメント

- 安定した受注工事があり、昨年に比べ売上増加傾向である。早ければ年内に、本社を移転する予定。(管工事業)
- 順調に売上は増加しているが、さらなる人件費の削減や材料価格の上昇にともなう利幅の縮小等が問題である。(一般建築業)

景況の推移



主な指標の動き



業種別業況判断DIの推移

今期(19年4月~6月)/ 前期(19年1月~3月期)

		△100	△90	△80	△70	△60	△50	△40	△30	△20	△10	0	10	20	30	40
総合工事業	業況															○●
職別工事業	業況															●○
設備工事業	業況															○●

経営上の問題点	1位	同業者間の競争の激化	63%
	2位	売上の停滞・減少	51%
	3位	利幅の縮小(3)	49%

当面の重点経営施策	1位	経費を節減する(1)	75%
	2位	販路を広げる(2)	69%
	3位	情報力を強化する(3)	43%

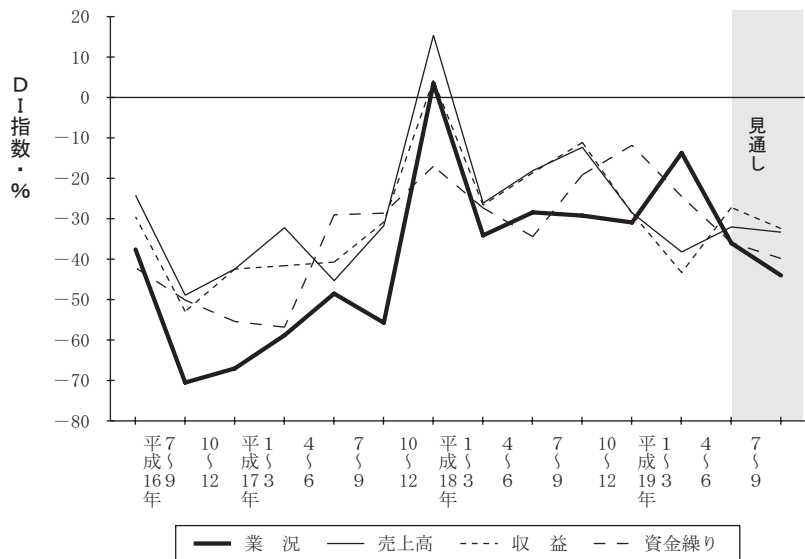
*()は前回順位

* 前期比：D I・季節調整済

景況

業況は、建売業・土地売買業で悪化傾向を弱めましたが、不動産代理業・仲介業で大きく悪化傾向を強めたため、全体としては-36と22ポイント悪化傾向を強めました。売上額、収益はともに減少傾向を弱めました。価格面では、販売価格が下降傾向を弱めましたが、仕入価格は下降傾向を強めました。在庫は不足感が弱まり、資金繰りは窮屈感を強めました。残業時間は減少傾向から増加傾向に転じました。人手は不足感がわずかに強まりました。

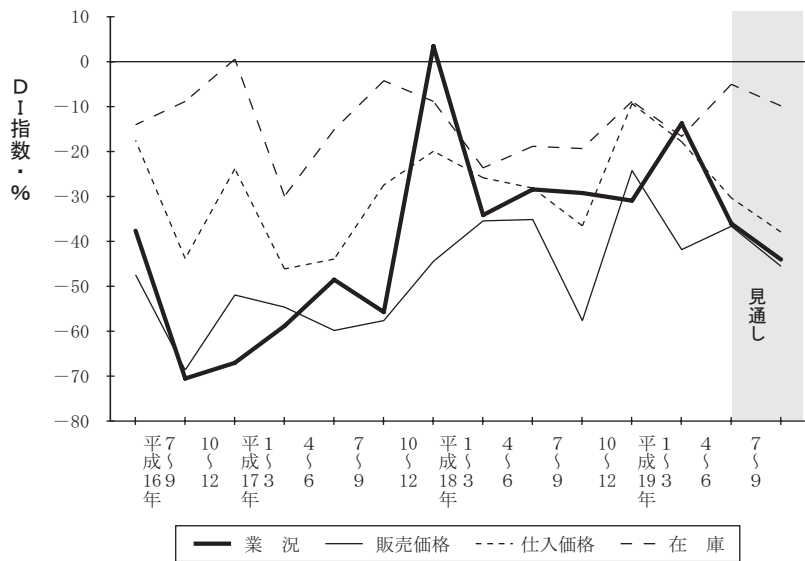
景況の推移



来期の見通し

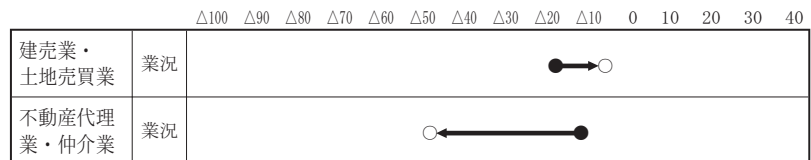
業況は、貸家業・貸間業が大きく悪化傾向を弱めるとみています。一方建売業・土地売買業で大きく悪化傾向が強まるとみており、また不動産代理業・仲介業でわずかに悪化傾向が強まるとみています。全体としては-44と今期に比べて8ポイント悪化傾向が強まるとみています。売上額、収益もともに減少傾向が強まるとみえ、価格面でも、販売価格、仕入価格とも下降傾向が強まるとみています。資金繰りは窮屈感がさらに強まるとみています。在庫は不足感が強まり、人手は不足感が弱まりそうです。

主な指標の動き



業種別業況判断DIの推移

今期(19年4月~6月)/ 前期(19年1月~3月期)



調査員のコメント

■ 売上減少しており、厳しい状態であるが、優良な物件確保のため質のよい情報収集している。

(建売業・土地売買業)

■ 現地店における売上は順調であるものの、中長期先の案件が不足していることから、営業力強化による販路の確保等を心掛けている。

(建売業・土地売買業)

経営上の課題点	順位	内容	社数(%)
経営上の課題点	1位	売上の停滞・減少(1)	14社(74%)
	2位	利幅の縮小(3)	11社(58%)
	3位	同業者間の競争の激化(2)	7社(37%)

当面の重点経営施策	順位	内容	社数(%)
当面の重点経営施策	1位	販路を広げる(2)	12社(63%)
	2位	情報力を強化する(3)	11社(58%)
	3位	経費を節減する(1)	10社(53%)

*()は前回順位 * 対象企業総数は20社

「中小企業の雇用・賃金動向」について

中小企業には、人手の過不足状況や雇用調整、賃金の見直し、採用を行う場合の、求める人材の確保といった様々な問題があります。そのような状況の中、中小企業経営者の皆さまに「雇用・賃金動向」についてお聴きしました。
(回答数343先)

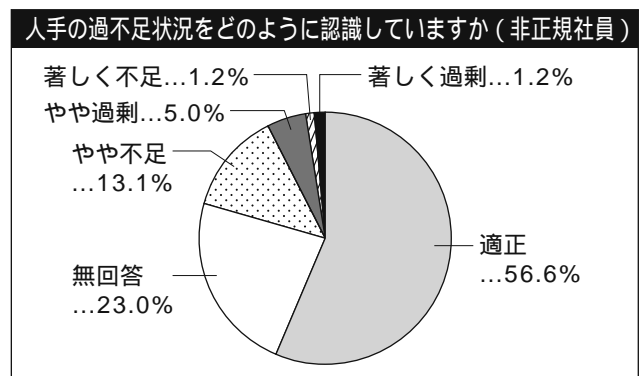
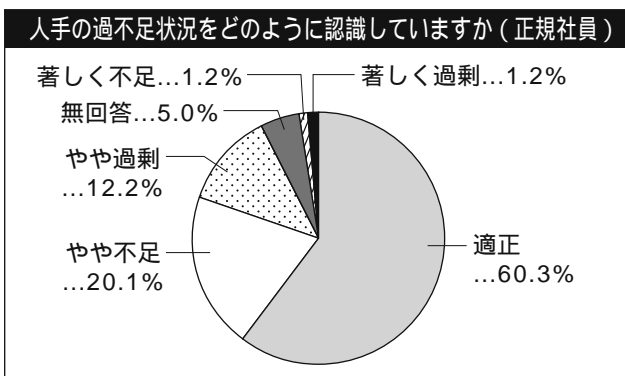
人手の過不足状況をどのように認識していますか。(正規社員)

...「適正」が60.3%

人手の過不足状況をどのように認識していますか。(非正規社員)

...「適正」が56.6%

人手の過不足状況については、正規社員、非正規社員とも「適正」とする割合が最も高くなっていますが、正規社員では、「著しく不足」と「やや不足」の合計が21.3%と、「著しく過剰」と「やや過剰」の合計の13.4%を上回っています。非正規社員でも「著しく不足」と「やや不足」の合計が14.3%と、「著しく過剰」と「やや過剰」の合計の6.2%を上回っており、人手不足となっています。



今後1～2年程度の間に入手不足感が強まった場合、どの雇用形態で人手を確保しますか。

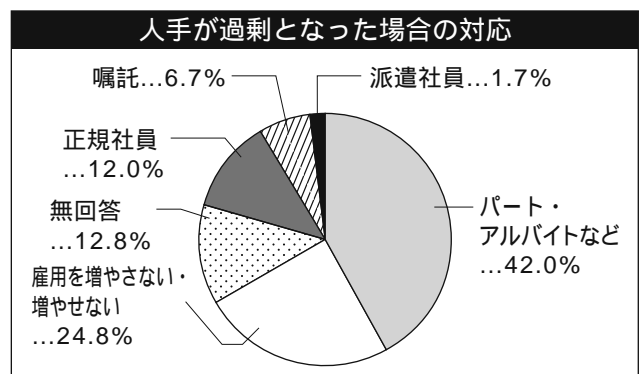
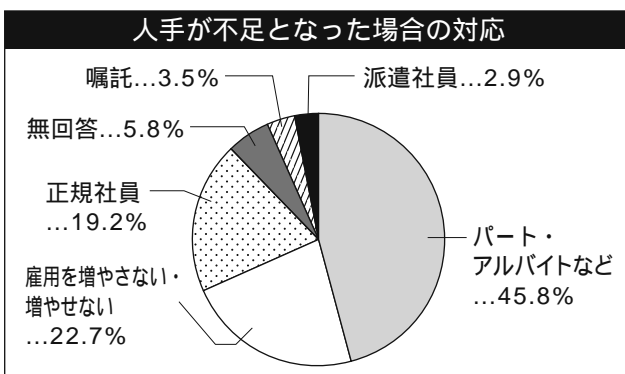
...「パート・アルバイトなど」が45.8%

今後1～2年程度の間に入手過剰感が強まった場合、どの雇用形態から調整しますか。

...「パート・アルバイトなど」が42.0%

人手が不足の場合に入手を確保する雇用形態は、「パート・アルバイトなど」が45.8%、「雇用を増やさない。増やせない」が22.7%、「正規社員」が19.2%となっています。

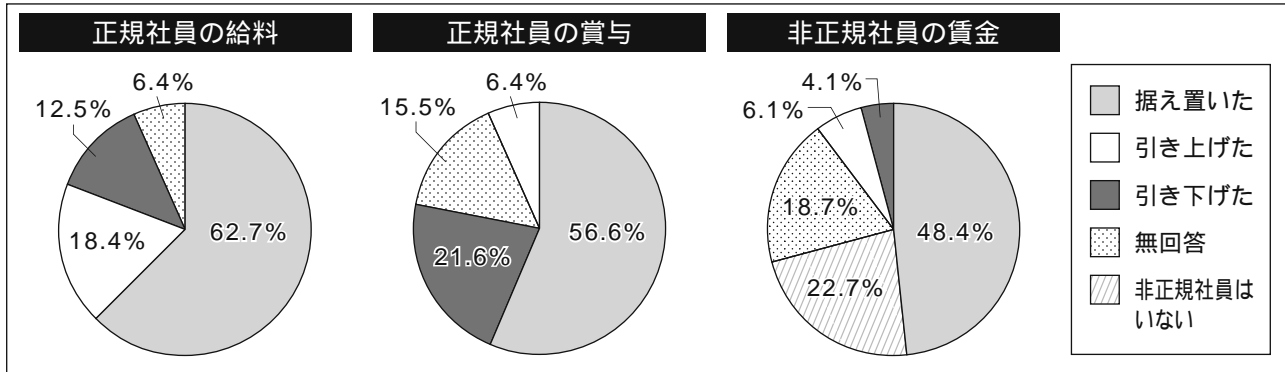
人手が過剰な場合の調整についても、「パート・アルバイトなど」が42.0%、「雇用を減らさない。減らせない」が24.8%、「正規社員」が12.0%の順となっています。



過去1年程度の間に、全体として賃金の見直しを実施しましたか。

- ...正規社員の給料を「据え置いた」が62.7%
- ...正規社員の賞与を「据え置いた」が56.6%
- ...非正規社員の賃金を「据え置いた」が48.4%

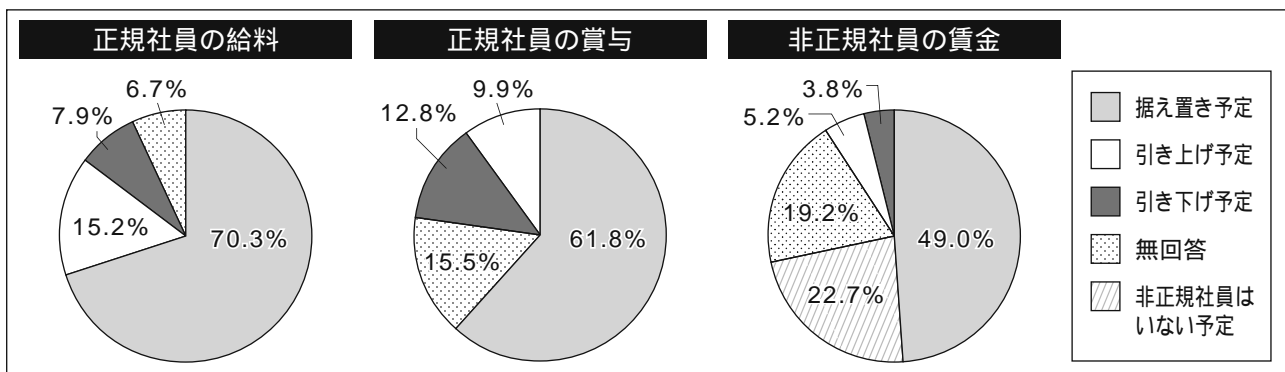
過去1年程度の間の実施した賃金の見直しについては、正規社員の給料および賞与、非正規社員の賃金とも、「据え置いた」がトップとなっています。正規社員の給料および賞与を「引き上げた」割合が24.8%と「引き下げた」割合34.1%を下回りました。また非正規社員の賃金については「引き上げた」「引き下げた」の割合はひとケタとなっています。



今後1年程度の間、賃金改定の方角性について

- ...正規社員の給料を「据え置き予定」が70.3%
- ...正規社員の賞与を「据え置き予定」が61.8%
- ...非正規社員の賃金を「据え置き予定」が49.0%

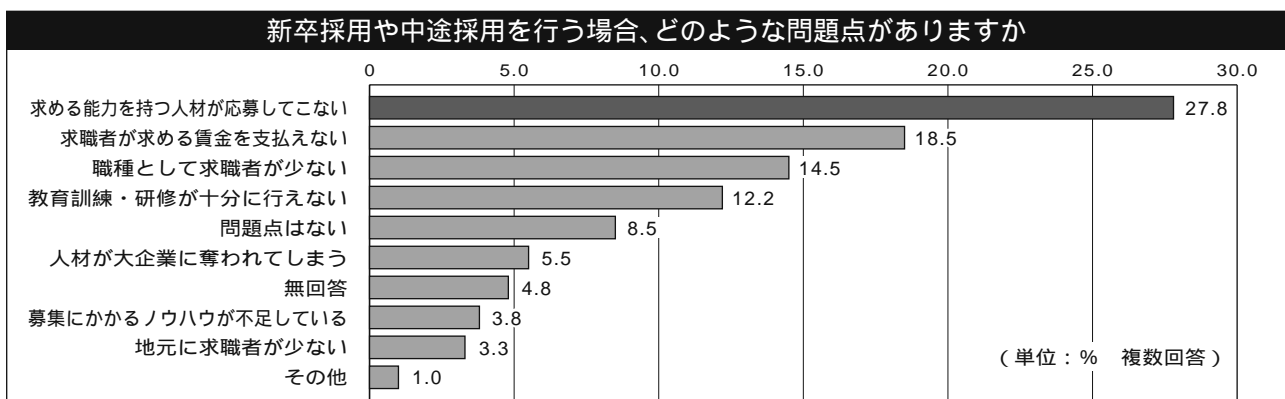
今年1年程度の間、賃金改定の方角性については、正規社員の給料および賞与、非正規社員の賃金とも、「据え置き予定」がトップとなっています。次いで正規社員の賃金で「引き上げ予定」が15.2%、正規社員の賞与で「引き下げ予定」が12.8%、非正規社員の賃金で「非正規社員はいない予定」が22.7%となっています。

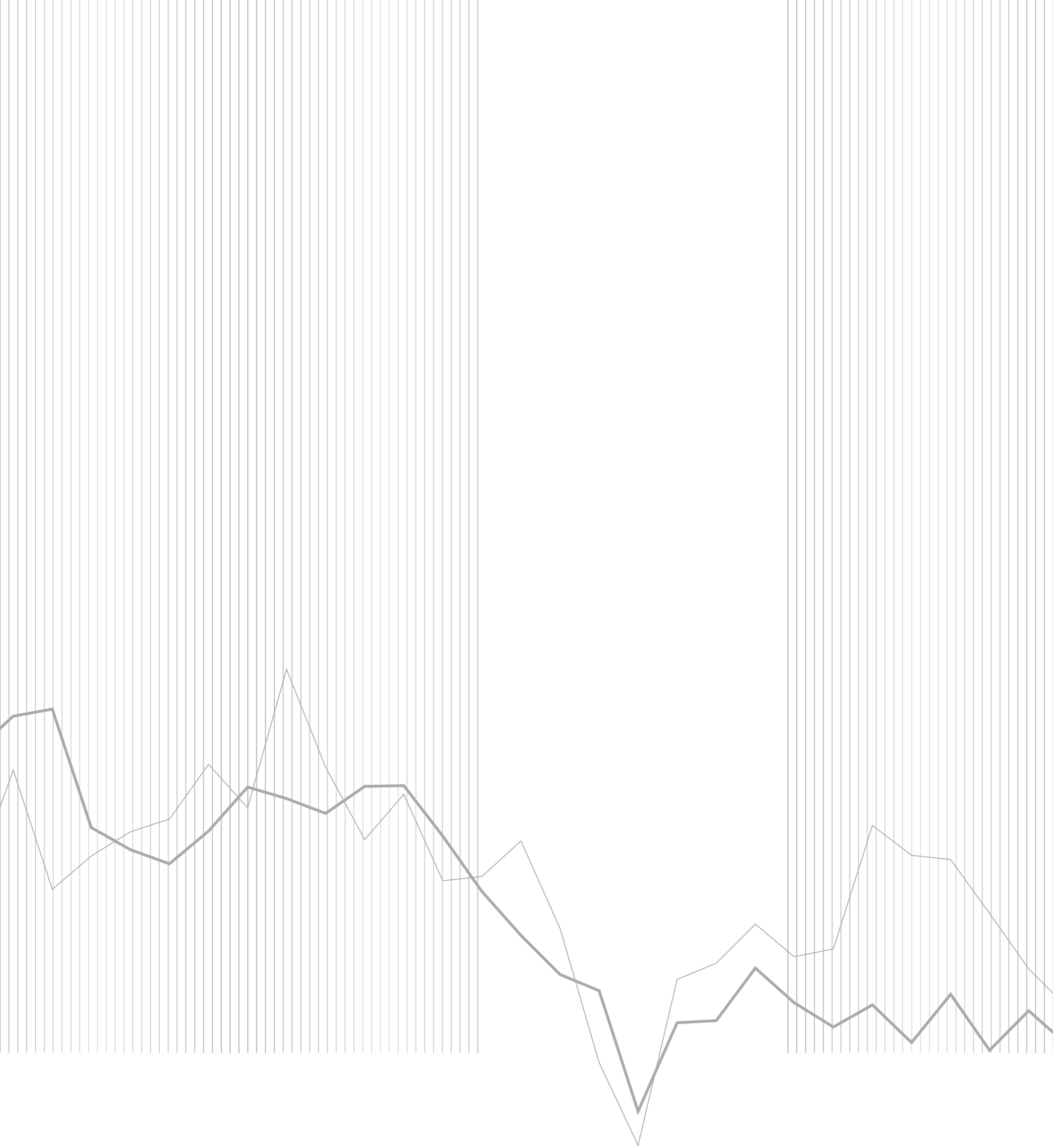


仮に新卒採用や中途採用を行う場合、どのような問題点がありますか。

- ...「求める能力を持つ人材が応募してこない」が27.8%

仮に新卒や中途採用を行う場合の問題点としては、「求める能力を持つ人材が応募してこない」が27.8%、次いで、「求職者が求める賃金を支払えない」が18.5%、「職種として求職者が少ない」が14.5%、「教育訓練・研修が十分に行えない」が12.2%の順となっています。





■企画・編集

盛岡信用金庫 企画部

019-623-2221

〒020-8641 盛岡市中ノ橋通1-4-6

もじしん